

2022年1月6日

博士学位審査 論文審査報告書（課程内）

大学名 早稲田大学
研究科名 大学院人間科学研究科
申請者氏名 古川 美和
学位の種類 博士（人間科学）
論文題目（和文） 介護老人福祉施設における看取りの分析-心肺蘇生処置に焦点をおいて-
論文題目（英文） Analysis of Terminal Care in Long-Term Care Facilities: Focusing on Cardiopulmonary Arrest

公開審査会

実施年月日・時間 2021年12月10日・13:00-14:30
実施場所 早稲田大学 所沢キャンパス 100号館第一会議室

論文審査委員

	所属・職位	氏名	学位（分野）	学位取得大学	専門分野
主査	早稲田大学・教授	加瀬 裕子	博士（人間科学）	早稲田大学	老年学
副査	早稲田大学・教授	扇原 淳	博士（医学）	順天堂大学	社会医学
副査	早稲田大学・教授	永島 計	博士（医学）	京都府立医科大学	環境生理学

論文審査委員会は、古川美和氏による博士学位論文「介護老人福祉施設における看取りの分析-心肺蘇生処置に焦点をおいて-」について公開審査会を開催し、以下の結論を得たので報告する。

公開審査会では、まず申請者から博士学位論文について30分間の発表があった。

1 公開審査会における質疑応答の概要

申請者の発表に引き続き、以下の質疑応答があった。

1.1 質問：スコーピングレビューの妥当性についてどのように判断したか。

回答：看護研究者3名と検討した上、基準に対して妥当と判断された論文を採用した。その旨を記載していなかったため、加筆したい。

1.2 質問：人間科学的意義について有効であるとは書いてあるが、内容についての説明が不足しているのではないか。

回答：これまでの先行研究は、医学または看護学からの視点で行われており、学際的なアプローチがなかった。介護現場のニーズは多様であり、人間科学的アプローチは有効である。

- 1.3 質問：用語に混乱があるのではないか。施設名をある部分では、高齢者介護施設と呼び、別の部分では介護老人福祉施設と呼んでいる。調査した対象の施設のバックグラウンドが明確ではない。特別養護老人ホームと有料老人ホームでは事情が違う。
- 回答：本論文は老人福祉法に根拠がある特別養護老人ホームを対象としているが、特別養護老人ホームは介護保険法下で指定施設として認定されると、介護老人福祉施設という名称が使用される。引用した先行研究では双方の名称が使用されており、引用先に準拠して本論でも併用せざるを得なかった。

2 公開審査会で出された修正要求の概要

- 2.1 博士学位論文に対して、以下の修正要求が出された。
- 2.1.1 本論文の目的について、看取りと救命処置、心肺蘇生の関係について明確に記述することを求める。
- 2.1.2 研究対象とした高齢者福祉施設の呼称について加筆するとともに、対象とした理由についての記述をより明確にすることにより、適切な記述となるように加筆を求める。
- 2.1.3 第4章、第5章、第6章は、第3章までの理論的検討を受けて具体策を探索する構成になっているので、並列する調査研究として記述することを求める。
- 2.2 修正要求の各項目について、本論文最終版では以下の通りの修正が施され、修正要求を満たしていると判断された。
- 2.2.1 第1章第2節第3項に、「心肺蘇生の倫理的課題」が加筆され、看取りと救命処置、心肺蘇生の関係についての記述が加筆された。
- 2.2.2 同じく第1章第2節第1項「死亡の場所の変遷と看取りの課題」に、介護保険施設のなかで、介護老人福祉施設が施設数、定員数ともに最も多く、研究対象とする旨が記述された。また、名称についても加筆された。
- 2.2.3 本論文の目的は、「本研究の目的は介護職に負担の大きい心肺停止時の対応と体制上の問題点を明らかにし、看取り体制上の課題解決の方向性を示すことである。」と記述が修正され、より明確となった。
- 2.2.4 論文の構成については、図1.6が変更され、全体の記述と第4章、第5章、第6章の関係が明確になった。

3 本論文の評価

- 3.1 本論文の研究目的の明確性・妥当性：本論文の目的は、介護老人福祉施設における入居者の命をまもることと同時に、本人の意思に沿って看取るという、アンビバレントな課題を達成するための方策を検討することである。その焦点を「心肺蘇生処置を行うか否かの判断がどのようにされるか」に置き、介護現場の問題を明らかにすることを目的としており、明確かつ妥当である。
- 3.2 本論文の方法論（研究計画・分析方法等）の明確性・妥当性：本研究は、まず、文献

レビューにより、先行研究の到達点を明らかにした。次に、施設における看取りの方針として政策的に推奨されている、アドバンスドケアプランニング (ACP) について現状を整理した。そのうえで、インタビュー調査を行い、入居者の心肺停止時における介護職員の行動を分析した。分析の結果、29 のコードが抽出され、13 のサブカテゴリーと 4 つのカテゴリーに分類された。(研究 1) 次に、得られたデータから質問項目を抽出し、介護老人福祉施設の看護職を対象に量的調査を実施し、救急搬送の実態を明らかにした。(研究 2) 先行研究の文献レビューに基づく研究計画の策定および探索的質的研究から得られた質問項目による量的調査の実施は、研究方法としての信頼性と妥当性を確保している。

なお、本論文で実施した調査の手続きについては、早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理委員会」の承認を取得し(研究 1 : 2012-001, 研究 2 : 2014-262), 調査の前には参加者に対して調査概要についての十分な説明を行い、インフォームドコンセントが得られた上で実施したとしており、倫理的な配慮が十分になされていると評価した。

- 3.3 本論文の成果の明確性・妥当性：本研究において、高齢者の看取りを行う施設に介護保険の加算を行うなど、行政により政策誘導がされているにもかかわらず、「心肺蘇生処置」は職員の判断に任せる実態が明らかになった。また、「看取り介護」を標榜する介護老人施設においても、死亡診断のために病院に救急搬送する割合が 2 割に上るなどの実態が、統計的に明らかにされた。これらの結果は、先行研究が従来から指摘していた問題を数値で実証したものであり、妥当な結果である。
- 3.4 本論文の独創性・新規性：本論文は、以下の点において独創的である。
 - 3.4.1 これまでの介護老人福祉施設における看取りの研究は、医学や看護の視点から、介護職員の知識・技術をめぐる研究が主流であった。先行研究では、施設から病院搬送された傷病者の特徴や、介護職員の蘇生措置の研修課題の検討にとどまっておき、問題解決への実効性は少なかった。本研究は、適切な心肺蘇生の実施を保証するためには、介護職の技術向上のみにとらわれることなく、システムの構築が鍵となる概念であることを提示したところに新規性がある。
 - 3.4.2 本研究は、システムの問題として、心肺停止時の対応マニュアルに不備があることを指摘した、初めての研究である。
 - 3.4.3 さらにシステムの問題として、本研究は、介護老人福祉施設において入所時に作成された「看取り意向書」が、死亡時期が現実的になったときに、医師の診断を得て作成すべき「看取り同意書」と混同されている実態を指摘した。この成果は、アメリカのナーシングホームでの調査により新たに得られた知見である。つまり、アメリカの介護施設では、医師の診断による「心肺蘇生をしない」方針が共有されることによって、介護職員の判断に任せないシステムを構築している。アメリカのシステムとの比較を行うことで、「看取り意向書」問題を明確化したことは、本論文独自の成果である。
- 3.5 本論文の学術的意義・社会的意義：本論文は以下の点において学術的・社会的意義がある。

- 3.5.1 超高齢社会では、病院で高齢者の「看取り」を行うことは医療崩壊を発生させることにつながる。病院で行う医療は、患者の治療であり、病院での「看取り」を希望する社会的風潮は是正されなければならない。尊厳のある最期を施設が高齢者に提供する方策を研究することは、社会的に必要であり、死亡を確認するために病院に搬送する方式は改めるべきである。このような課題に取り組む本論文の社会的意義は明確である。
- 3.5.2 本論文は、介護老人福祉施設の介護職員が、介護業務を入居者の「生活の支援」と考えていることと同時に、施設のシステムも同様になっていることを明らかにした。そのことが、結果的に入居者の尊厳ある死を阻むことも生じており、老人福祉法の理念と介護福祉法による「看取り」政策の齟齬が現場の矛盾の根源であることを示した。本論文は、「生活の支援」と「看取り」の矛盾を解決するという研究の視点を提示することにより、高齢者介護研究の新たな方向を示唆する学術的意義のある論文であると言える。
- 3.6 本論文の人間科学に対する貢献：本論文は、以下の点において、人間科学に対する貢献がある。
- 3.6.1 介護老人福祉施設における「看取り」は、人口減少社会となったわが国において、今後さらに深刻化する社会問題である。本論文は、医学・看護学・老年学・社会福祉学・社会学の学際的アプローチを応用して「適切な救命と看取りのモデル」を明らかにし、社会問題解決に人間科学が有効であることを示している。
- 3.6.2 本論文は、高齢者の「看取り」における不要な病院搬送問題を解決するためには、ケアマネジャーを要として、医療職・看護職・介護職が終末期にチームを組み、情報共有を行うことが効果的であることを実証した。介護・医療現場におけるチームアプローチの重要性を実証できたことは、人間科学に貢献するものである。
- 3.7 不適切な引用の有無について：本論文について類似度を判定したうえで精査したところ、不適切な引用はないと判断した。
- 4 学位論文申請要件を満たす業績（予備審査で認められた業績）および本論文の内容（一部を含む）が掲載された主な学術論文・業績は、以下のとおりである。

古川美和,加瀬裕子. (2017). 高齢者の心停止に関連する介護職の役割と施設の体制：米国の介護施設での現地調査から. 介護福祉学, 24(2), 96-102.

古川美和. (2019). 特別養護老人ホーム入所者の尊厳を守る夜勤時救急対応の課題. 高齢者虐待防止研究, 15(1), 79-89.

5 結論

以上に鑑みて、申請者は、博士（人間科学）の学位を授与するに十分値するものと認める。

以 上